

Jesu dulcis memoriaの逐語訳

Jesu dulcis memoria (イエス、優しい思い出)

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊 川津泰人 平成17年7月

作曲: Thomas Luis de Victoria 作詞: St. Bernard of Clairvaux

Thomas Luis de Victoria(1549-1611)

	Jesu	dulcis	memoria,		
	イエス	甘い、優しい	思い出		
	Dans	vera	cordis	gaudia,	
	与える、施すdo	真実の	心、心臓	喜び	
	Sed	super	mel	et	omnia
	しかし	より超えて	蜜、蜂蜜(注ご参照)	そして	全て
	Ejus	dulcis	præsentia.		
	彼	甘い、優しい	存在、		
標準的意訳	口語訳 イエス、優しい思い出 まことの心からの喜びを与える しかし蜂蜜よりもなお甘美で素晴らしいのは 彼の美しいみ顔を仰ぐこと				

	英語歌詞					
	Jesu	the	very	thought	is	sweet,
	イエス	定冠詞	本当の、真の	思い、考え	である	甘い、優しい
	In that	dear	name,	all	heart-joys	meet;
	その中で	親愛な、真の、大事な	名前	全ての	喜びの心	会う
	But	sweeter	than	the	honey	far,
	しかし	より優しい、甘い	よりも	定冠詞	蜂蜜	はるかに
	the	glimpses	of	his	presence	are.
	定冠詞	ちらりと見えることは	の	彼の(イエスの)	存在、列席、面前	である
標準的意訳	口語訳 イエス、その本当の思いは優しい イエスのお名前で、全ての喜びは心の満ち溢れる しかし、蜂蜜よりはるかに甘く優しいのは イエスが、現れていただけることである					

<参考情報>

Thomas Luis de Victoria(1549アビラー-1611Madrid)	
	スペインの作曲家、イタリア名Tomaso Luigi da Vittoriaアビラの名門衣類商に生まれ、少年時代アビラ大聖堂の聖歌隊員となり17歳でフェリペ2世より奨学金を受けローマのドイツ学院に留学。パレストリーナの知遇も受け、若く優れた宗教音楽作曲家、歌手、オルガン奏者として活躍、71年卒業後、マリアディモンセラート教会礼拝堂楽長となった。27歳で司祭の資格を受けた。85年ごろスペインへ帰国、マドリッド近郊の修道院で司祭兼音楽家として過ごし、晩年は主にオルガン奏者として過ごし、65歳で平安のうちに病没。生涯独身を過ごした パレストリーナ、ラッスと並ぶルネッサンス宗教音楽の大家の一人、20曲のミサ曲、約50曲のモテット、30数曲のイムヌス、20曲ほどのマニフィカトなど総計約180曲に及ぶ多数の宗教歌曲があるが、一遍の世俗曲も作曲しなかった。
ミサとは	もともととは解散という意味—Ite,missa estここで会は終わるので解散 キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現するキリスト教会の最も重要な典礼、その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分かち与えることからなる。楽曲としては、Offertorium(奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio(聖体拝領唱)が上記の項にそれぞれ対応する
mel(蜜)	神から与えられる生命、虚偽の無い尽きざる豊かさの象徴 1. 旧約聖書では、イスラエル人に約束した土地を、(乳と蜜の流れる土地)と表現している 2. 神の言葉はそれを受け入れるものにとって蜜のように甘い(詩119:103)
油 oleum	穀物、ぶどう酒と並んで神の祝福の徴(しるし)と考えられ、これを欠くことは不忠実に対する神罰、これが豊かに恵まれることは救いを意味する。聖なる油の注油は信仰者に聖霊の多種多様な恵みを伝える。 聖書では、神の祝福、聖別の象徴であり、祭司、王、預言者の努めを受ける際に油が注がれた。
聖別 consecratio	ある人や、物、場所や時を神に捧げること、又は捧げる者/物、他の者/物と区別すること。最も重要な聖別はキリストの定めた言葉(聖別句)を唱えることによってパンとぶどう酒がキリストの体と血になるという出来事
旧約	イエスの死と復活に神と人間との関係の刷新と考えそれを新しい契約—新約、イエス以前の契約を旧約と呼ぶ、その中で特に重要なものはモーゼを仲介にシナイ山で締結された十戒を中心としたシナイ契約
Vetus testamentu	他に、ノア契約、アブラハム契約、ダビデ契約などがある
贖う(あがなう) redemptio/redemptio	本来は経済活動に伴う法的義務、零落して自分の土地を売ったり、自分自身を身売りしなければならぬ時に、その親族がそれを買い戻すこと、一般的には、罪を不問に付すこと、救うという意味になった

ドイツ式ラテン語読み(主要なもの)	c(e,iの前でツイ, pacem/パーツェム), sc(a,o,uの前でkse,lの前でsts—suscipe, ススツイベ), gn/gl(そのまま発音agnusアグヌス), gu+母音=qu+母音(gv—sanguine サングヴァイネ, kv—quiクヴァイ), hlはよむ, e(ドイツ式に発音meserere—ミゼレイレ, laudamus テーティ—)など他にもあるので詳しくは三ヶ尻著ミサ曲ラテン語教会音楽ハンドブック(シヨパン)ご参照
-------------------	--